

学校教育における野外体験が児童の規範意識に及ぼす影響

森下 建佑 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 黒澤 毅

キーワード：学校教育，野外体験，児童，規範意識

1. 緒言

現在，学校現場では，児童の規範意識の低下による学級崩壊や暴力行為などの課題を多く抱えている．規範意識とは，「ある対象に価値判断を下す際，その前提となっている価値を価値として認める意識」と説明される²⁾．規範意識が低いと，社会的ルールである「暴力をふるわない」「挨拶をする」などといった様々な基本的な意識や行動に価値を感じられず，認める意識が低いということが言える．

以上のことから本研究は，学校教育における野外体験に着目し，児童の規範意識に及ぼす影響について明らかにすることを目的とする．

2. 研究方法

【対象者】平成28年11月7日から11月8日にK少年自然の家で実施された「ふるさと体験」に参加したI小学校4年生88名を実験群とし，統制群としてN小学校4年生61名を対象とした．

【調査方法】小暮¹⁾が作成した「児童の規範意識と規範を守る行動の実態調査」を参考に，筆者が質問項目を改善した，行動因子18項目，意識因子18項目からなる規範に関する2因子36項目で構成されたアンケート用紙を用いて調査を行った．実施時期は，実験群・統制群共に野外体験前(pre)・野外体験後(post)・野外体験から一週間後(post1)の計3回アンケートを実施した．

3. 結果と考察

児童の規範意識の変化をみるため，2要因の分散分析を行った結果，規範意識得点において時期に0.1%水準の有意差($F=15.4, p<.001$)，群に0.1%水準の有意差($F=10.1, p<.001$)が見られた．さらに多重比較の結果，実験群の時期において，pre-post間で5%水準，pre-post1間で0.1%水準，post-post1間で0.1%水準の有意な差が見られた．両群のpre時，5%水準，post時，1%水準，post1時，0.1%水準の有意な差が見られた．調査時期における規範意識得点の推移について，図1に示した．因子別規範意識得

点においては行動因子得点・意識因子得点共に時期・群・実験群の時期において有意な差が見られ，質問項目別規範意識得点も行動・意識共に実験群が統制群よりも高い数値を示した．

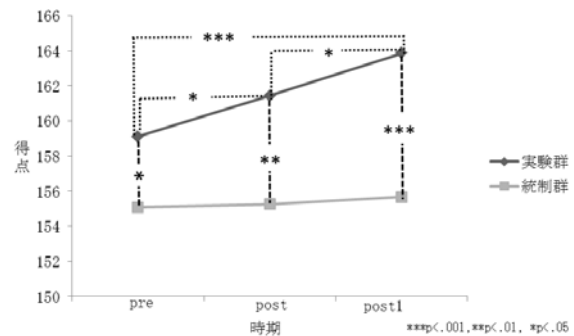


図1 野外体験による規範意識得点の推移

他者との関わりが絶えない野外体験は，児童の規範意識に大きな影響を及ぼし，規律の絶対を，身を持って体験する．その結果どういった行動がダメで，それらはなぜダメだったのかを理解したことが，規範意識が向上した要因であると考えられる．野外体験を経験することで児童は規範の考え方や捉え方が変わり，規範を守る事の価値を見出したと考えられる．そのため，野外体験を経験することで児童の規範意識が向上したと考察する．

4. まとめ

学校教育における野外体験では，児童一人一人の生きる力を育み，向上させるようなプログラムが大切であり，児童の生きる力の向上，つまり規範意識と規範行動の向上を図ることにつながる．このようなことから野外体験は厳しいものの中に「楽しさ」，「やって良かった」，「出来て良かった」という要素を取り入れ，自発的に行動させるようなプログラムを含んでいることから，児童の規範意識を向上させるために適していると考えられる．

「引用・参考文献」

1) 小暮聡美 (2012)：児童の規範意識に関する調査研究-道徳の時間における規範の内面化に着目して-，群馬県総合教育センター．

2) 塩澤雄一 (2011)：子どもの規範意識に関する現状分析と意識向上の方途についての一考察，目白大学総合科学研究，第7号，p.41-46．